福浦断層周辺の段丘面調査



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-3 再掲

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-4 再掲

【福浦断層周辺の段丘面調査(一覧表)】

												· · · · · ·			
調査 地点	段丘面区分	調査方法	土壤	火山灰	振动 (1) 他形面	ы(m) │ 岩盤上面	備考	調査 地点	段丘面区分	調査方法	土壤	火山灰	· 标向 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1(m) 岩盤上面	備考
(1)	中位段丘I面	ピット. ボーリング. コ	赤褐色土壌あり	AT. K-Tz	23.4	21.7	No.1	(32)	高位段丘亚面	検土杖調査	赤褐色土壌あり	AT. K-Tz	82.0	_	
0		アサンプラー調査		,	25.9	24.1	No.2	33	高位段丘亚面		赤褐色土壌あり	AT	99.0	-	
					27.4	26.0	No.3	34)	中位段丘I面	ボーリング調査	なし	AT	27.9	26.6	
					28.5	26.7	No.4	35	中位段丘I面	ボーリング調査	なし	AT, K–Tz	24.2	22.6	
2	中位段丘I面	ピット調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	22.3	20.0	No.1	36	中位段丘I面	露頭調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	27.2	_	
					26.5	25.3	No.2	37	高位段丘Ia面	露頭調査	赤色土壌あり	K-Tz	34.0	31.2	
					26.7	24.7	No.3	20	市位砂丘工商	ピット ギーロ ガ調本	去想色土擁有目	Aso-4,	0.6	7.0	
3	中位段丘I面	ピット調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	16.5	14.9	No.1	30	中位按丘工画	と ツト, ホーリンク 調査	が 何巴工 場の り	K-Tz, SK	9.0	1.2	
					18.5	16.4	No.2	39	中位段丘I面	トレンチ調査(No.2トレンチ)	赤褐色土壌あり	K–Tz	21.5	19.2	海成堆積
					20.4	18.2	No.3	40	高位段丘Ia面	トレンチ調査(35m盤トレンチ)	赤色土壌あり	K-Tz	35.1	33.7	物確認
					23.4	21.9	No.4	(41)	高位段丘Ia面	トレンチ調査(駐車場南東方ト	赤色土壌あり	K–Tz	41.3	38.6	(礫の形
					26.0	24.4	No.5		승규야 아파 구		+ 2 - 15 - 1				1 秋の定重 1 的な評価
4	中位段丘I面	ボーリング調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	18.2	18.0	No.1	(42)	高位段上 l b面	トレンナ調査(大理川タム石库	亦巴土壌めり	AI, K-Iz	51.8	49.1	を実施)
					19.9	19.1	No.2	13	山位段丘丁南	ボールング調査	<i>t</i> el		24.0	22.5	
					20.5	19.8	No.3		<u>中世段正 1 面</u> 高位段丘 1 a面			AT K-Tz	34.7	32.5	
					21.9	20.4	No.4	45	高位投 <u>止</u> 13面		赤褐色土壌あり		43.7	41.2	
(5), (1)	高位段丘 I a面	ボーリング調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	33.8	32.5	5No.8/10No.1	46	高位段丘工協調	ボーリング調査	赤色土壌あり	AT K-Tz	39.1	37.5	
					34.9	33.7	5No.9/10No.2		高位段丘工福	ホーリング調査	赤色土壌のり	AT K-Tz	40.8	37.5	
					37.5	34.1	⑤No.10/⑩No.3	48	高位段丘工協調	ボーリング調査	赤色土壌のク		38.8	36.4	
					38.2	37.2	10No.4	49	高位段丘工協調	ボーリング調査		_	38.6	37.7	
6	中位段丘I面	ピット調査	赤褐色土壌あり	K-Tz	22.3	20.1	No.1	50	高位段丘工山面	ボーリング調査(FD-5孔)	なし	_	37.2	36.1	
					23.3	20.9	No.2	a	高位段丘工面	ボーリング調査(FD-4孔)	なし	×	38.9	37.7	
					25.4	24.7	No.3	6	高位段丘工面	ボーリング調査(FD-7孔)	なし	_	39.0	38.0	
\bigcirc	中位段丘I面	コアサンプラー調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	27.4	24.7	No.1	©	高位段丘Ia面	ボーリング調査	なし	_	38.9	36.0	
					28.3	24.7	No.2	d d	高位段斤Ia面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	42.3	40.5	
8	高位段丘 I a面	露頭調査	赤色土壌あり	_	33.0	32.0	No.3	e	高位段斤Ib面		赤色土壌あり	AT. K-Tz	55.0	53.8	
9	高位段丘 I a面	ボーリング調査	赤色土壌あり	×	45.6	44.0		(f)	高位段丘Ib面		赤褐色土壌あり	AT	57.0	56.4	
1	高位段丘 I b面	ボーリング調査	なし		46.4	45.3	No.6	(g)	高位段丘Ib面	 ピット調査	赤色土壌あり	AT	61.0	59.7	
12	高位段丘Ia面	トレンチ調査(えん堤	赤色土壌あり	AT, K-Tz	38.6	35.7		ĥ	高位段丘Ib面	露頭調査	赤色土壌あり	—	59.6	57.7	
10	승규에도 제품	左	十年上校と日		50.0			(j)	高位段丘Ib面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	44.8	43.6	
	高位段丘」b面		亦巴工壌めり		58.0	55.7		(j)	高位段丘Ib面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	64.4	63.7	
(14)	高位段丘Ib面 古た印ビュー王	路期調査	ホ巴工壌めり		52.1	_		k	高位段丘Ib面	露頭調査	赤色土壌あり	AT, K–Tz	56.2	54.7	
(15)		<u> こから調査</u>	ホ巴工壌のり	-	53.0	50.0		0	高位段丘Ib面	ボーリング調査	なし	—	58.7	58.2	
(1)	高位段丘」の面		ホ巴工壌のり	-	52.0	-		m	高位段丘 I b面	ボーリング調査	赤色土壌あり	—	49.0	47.7	
	高位段丘ID面		ホ巴工壌のり	+ -	52.0	-		n	高位段丘 I b面	ボーリング調査(OS-2孔)	赤色土壌あり	K–Tz	55.9	53.2	
10	高位校正10面	路明調査 マムンプニー調本	ホ巴上場のり	— К.Т.	45.0	42.0		0	高位段丘 I b面	ボーリング調査(OS-3孔)	赤色土壌あり	_	57.2	55.4	
(19)	高位校正Ⅱ圓	コアリンフラー調査 コアサンプニ 調本	ホ巴上場のり	K-1Z	84.8	83.1		P	高位段丘 I b面	ボーリング調査(FD-8孔)	赤色土壌あり	×	48.3	47.3	
20	高位校正単面	コアリノノフー調査 電話調本	ホロ上場のり		79.8	78.4		(¶)	高位段丘 I b面	検土杖調査	赤褐色土壌あり	AT	56.0	_	
<u>(</u>)	高位校正Ⅱ圓	路明調査 マムンプニー調本	ホ巴上場のり	+	02.0	59.0		r	高位段丘 I b面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	55.9	53.0	
<u>u</u> n	同位校正工画	コアサンプニー調査	<u> 小巴工場の9</u> 去色土焼ちい		70.0	07.0		S	高位段丘 I b面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	59.2	57.2	
20	<u>同位段止止面</u> 喜位段ら町面	- コノリノノノー 詞重 電話 調本	赤色土壌のり		69.0	65.0		t	高位段丘 I b面	露頭調査	赤色土壌あり	_	60.2	58.5	
<u>(4)</u>	同位校正単面		<u> 小巴工場の9</u> 去色土焼ちい		72.0	60.0		Ű	高位段丘 I b面	ボーリング調査	なし	_	61.6	60.8	
<u>(</u>)	<u>同位段止止面</u> 宣位段ら元素				72.0	09.9		V	高位段丘 I b面	ボーリング調査	なし	_	51.7	51.6	
<u></u> 	<u>同位段止血面</u> <u></u> <u> </u>		<u>よの</u> + ケント		03.0	02.0 70.7		W	高位段丘 I b面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	52.6	51.0	
28	高位段丘亚面	1日本 1日本	赤色土壌あり		78.0	-		×	高位段丘Ⅱ面	ボーリング調査	なし	—	71.4	70.3	
29 29	同世校正単画	こノご呵旦 ピット調杏	<u> </u>	-	99.0	96.4		ý	高位段丘Ⅱ面	露頭調査	赤褐色土壌あり	_	68.3	67.0	
30	高位段丘亚面	<u>これ 副単</u> 家頭調杏	<u>ホロー級のり</u> 赤色+憧あり	K-T7	102.0			Z	高位段丘Ⅱ面	検土杖調査	赤褐色土壌あり	AT, K-Tz	74.0	-	
31)	高位投行市面	▲ 本 本 部 地 部 地 部 地 部 地 部 地 部 地 部 地 部 地 部 本 十 村 調 本	赤褐色+撞あい	AT K-T-	89.0	-		A	高位段丘Ⅱ面	ボーリング調査	赤色土壌あり	_	74.1	72.7	
V		<u>」ズェンミュ</u> ニコニのケル(町ロュュ	<u>」 が同じ上級のジ</u> 年十 2011)		 /Tel	1	I	B	高位段丘Ⅲ面	露頭調査	赤色土壌あり	-	81.9	80.6	
	-			火田灰凡	[9]			C	高位段丘Ⅲ面	検土杖調査	赤褐色土壌あり	AT	81.0	80.2	
		AT:2.8万~3万੯	手前 し	×:火山灰検	出せず			D	高位段丘 I b面	ボーリング調査	赤色土壌あり	-	48.0	46.8	
		Aso-4:8.5万~9	万年前	一:分析未実	施			E	高位段丘 I a面	ボーリング調査	赤色土壌あり	-	41.0	38.6	
		K−Tz:9.5万年前 SK:10.5万年前												2.	2-1-4

①中位段丘 I 面 段丘面調査結果

→ SE





NW 🚄



この図は航空レーザ計測データを基に 作成した立体地図である。

調査位置図

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-6 再掲

【柱状図】



②中位段丘 I 面 段丘面調査結果



③中位段丘 I 面 段丘面調査結果







この図は航空レーザ計測データを基に 作成した立体地図である。

調査位置図

【柱状図】



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-10 再掲

④中位段丘 I 面, ⑤高位段丘 I a面 段丘面調査結果



調査位置図



本測線の地質データは、1号機建設前(S60, 61年)にボーリング調査によって取得されており、コアの状況が悪く、海成堆積物の識別が困難である。



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-11 再掲



⑥中位段丘 I 面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-12 一部修正



調査位置図







ピット写真(No. 2)

⑦中位段丘 I 面, ⑧高位段丘 I a面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-13 一部修正



⑨高位段丘 I a面 段丘面調查結果





1km

深度	標高	地 質	14 10 17	土壤層	位	A 10	法国际八	50 FF	分析	項目
(m)	(m) 45.61	柱状図	地員名	名称(厚さ (cm)	也 調	地層区分	8C 49-	火山灰分析	その他分析
0.0	45.26	\times	シルト	0	0.35	褐灰色 (10YR4/1)	耕作土	強い指圧で変形する。 草根混じりである。下部は褐色味が乏しい。	AT 混在	
0.50	45. 11		シルト	ΠB 0), <u>15</u>), 90	推巴(5YR6/6) 赤褐色 (2.5YR4/8)	赤色土壤	強い指圧で変形しない。わずかに砂分を含む。 赤褐色(2.5YR4/8)部と不明瞭な斑状模様をなす。 強い指圧で変形しない。 0.7m付近まで白色の中粒砂分をわずかに含む。橙色 部と明瞭な斑状模様(トラ斑模様)をなす。0.8~		→ 遊離酸化鉄 結晶化指数:0.73
1. 60 2. 0 3. 0 4. 0	44.01		礫混じりシルト 凝灰角礫岩 (強風化)	<u>m</u> c o	2. 90	明赤褐色 (5YR5/6) 福~ [こぶい褐色 (7.5YR4/4~ 7.5YR5/4)	確混じりシルト層 凝灰角礫岩 (強風化)	0.9mは、やや赤色味に之しい。付近より染部は赤色 味乏しくなる。下位層との境界は漸移的である。 強い指圧で変形しない。灰褐色部をわずかに含む。 1.55m付近~1.6mは、径5mm以下のくさり礫をわずか に含む(含有率10%以下)。礫は、黒色・褐色等の安山 岩角礫。下位層との境界は不明瞭である。 風化により著しく酸化褐色化している。 基質は、褐色~にぶい褐色を呈する。 凝灰岩でナイフにより容易に傷がつく程に軟質化 している。礫は、褐色・オリーブ色・黒色・赤褐色等、 多様な風化色調を呈する。 安山岩角礫~亜角礫よりなる。礫も全般にナイフで 削ることができる程、風化している。碟径は、2~ 150mm以上で分級が悪い。礫含有率は70%以上。 3.0~4.5mは、径100mm以上の大礫とそれを充填する 基質(細礫)よりなる。		24 TE (\$.005
5.0	40. 58	v	火山礫凝灰岩 (強風化)	0	0. 53	赤褐~ にぷい褐色 (5YR4/8~5YR5/4)	火山礫凝灰岩 (強風化)	基質は、上位と同質であるが赤色味を帯びる。 礫は、径20mm以下の安山岩角礫よりなる。 礫含有率は50%程度。	Ē	
5. 03 6. 0		* * *	安山岩 (強風化)	0). 97	にぶい橙~ 浅黄橙色 (7.5YR7/4~ 7.5YR8/4)	安山岩 (強風化)	著しく風化しており、ナイフで容易に削ることができる。5.5m付近までは粗粒~細礎状の白色粒子を多く含み、角礫質である。全体に割れ目は少なく、割れ目沿いの脆弱化は見られない。		

ATについては混在であり降灰層準を 認定していない。

柱状図

テフラの年代 (町田・新井, 2011)

AT:2.8万~3万年前





第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-15 再掲

⑩高位段丘 I a面, ⑪高位段丘 I b面 段丘面調査結果







本測線の地質データは、1号機建設前(S60, 61年)にボーリング調査によって取得されており、コアの状況が悪く、海成堆積物の識別が困難である。

No.1は⑤地点のNo.8
 No.2は⑤地点のNo.9
 No.3は⑤地点のNo.10



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-16 再掲



柱状図

12高位段丘 I a面 段丘面調査結果



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-18 再掲



③高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(IB2g1)

近接写真(ⅡB2g2)

凡例

高位段丘Ia面

中位段丘I面 古期扇状地面

沖積段丘面

1km

↓ Lc (変動地形である可能性が低い) ↓ Lp (変動地形である可能性は非常に低い)

地形断面線



	深度 (m)	柱状図	土壌 層位 (名称)	土性あるいは 地質名	色調	土壤構造	腐植含量	硬密度	乾湿	層界の性状	斑紋	観察	記事
(EL 52.1m) —			A1	砂質シルト	黒褐 (10YR 3/2)	粒状	多	疎	乾	不明	なし	指圧で指が入る程,非常に 悪い。	1締まりの程度は
	3		A2	砂質シルト	にぷい黄褐 (10YR 5/4)	弱亜角塊状	含	疎	半湿	不明	なし	指圧で跡が残る程、締まり	の程度は悪い。
	-		B1	砂混じりシルト	明褐 (7.5YR 5/6)	弱亜角塊状	なし	中	半湿	不明	なし	指圧でわずかに跡が 較的締まっている。	残る程度に比
	0.5	ŢŢ.	B2	シルト質粘土	明赤椹 (5YR 4/6) にぷい黄樫 〜にぷい黄褐 (10YR 6/4-5/4)	中塊状	なし	密	半湿	不明	やや鮮明 ・まだら	指圧で跡が残らない いる。	程,締まって
	1.0		П В2	シルト質粘土	赤褐 (2.5YR 4/8) にぶい黄橙 (10YR 7/3-6/4)	中~強塊状	なし	密	半湿	不明	鮮明 ・縦	指圧で跡が残らない いる。	程, 締まって
baa aaa aa	1.5		堆段		PT-6							44577-0004-1726 A 3-1	(r) 646-3
5 080		11	積丘	シルト質粘土	灰日 (5YR 8/2)	2	0				-	指圧で跡か残らない。 いる。	程,箱まって
	2.0												
53)						++ /니	- 17	1					



15高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅡB2g)

近接写真(ⅢB2g)

16高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅡB2g)

近接写真(ⅢB2g)

⑪高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅢB2g)

18高位段丘 I b面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅢB2g)

近接写真(ⅣB3g)

⑲高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果





コア写真

火山灰分析結果

	火山ガラスの	形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物の含有	量(/3000粒子)	β石英 (/3000粒子)	88.83.00 MM	小山ボラスの見たま	
(料書号	Bw	Pm	0	Орх	GHo		14 PC 80 40	大山カラへの居祈幸	7776
A00	25	0	0	2	2	0.7			
A01	ŷ	Ó	Ö	1	2	0.3			
A02	18	0	0	3	6	0.8			
A03	42	0	0	4	11	0.7		1.4968-1.4999	AT混在
A04	26	0	0	2	8	1			18 19
A05	16	0	0	2	4	2			- 18 C
A06	0	0	0	0	0	2.5			× *
A07	0	0	0	0	0	1.4			N-12
A08	0	0	0	0	0	0.9			- 33 St.
A10	0	0	0	0	0	1.6			- 2
A11	0	0	0	0	0	0.6			8.0
A12	0	0	0	0	0	0.1			12
A13	0	0	0	0	0	0.1			8.0
A14	0	0	0	0	0	0			- 93 - 93
A15	0	0	0	0	0	0			- 3 3
A16	0	0	0	0	0	0			- 22 13
	Bw:パブルウォー Pm:パミスタイプ	ルタイプ		Opx:斜方歸石 G	Ho:錄色普通角閃	5			
	0:低発泡タイプ								

^{*} 深度0.0~0.27mは、コアサンプラーの打撃 により圧縮されているため、見掛け上コアが 欠如している。







②前合段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅡB2g)

近接写真(ⅢB2g)

②高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図





4.0-

柱状図



* 深度0.0~0.1mは、コアサンブラーの打撃 により圧縮されているため、見掛け上コアが 欠如している。

② 高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅢB2g)

近接写真(ⅣB3g)

②高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果

斑紋の

コントラスト

不明瞭

くやや明瞭

明瞭

きわめて明瞭

やや明瞭

2.2-1-31



調査位置図





近接写真(ⅡB2g)

近接写真(ⅢB2g1)

26高位段丘亚面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-32 再掲



近景写真

計型和口		火山ガラスの	D形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/300	00粒子)	β石英	바보 글그 수수 바/~	ルルギニュのロビッ		1
武科笛方		Bw	Pm	0	Орх	GH₀	Cum	(/3000粒子)	待記動物	火山カラスの屈折率	テノフ名	
0.0-0.1	表土	45	0	0.5	22	16	0	1.5				
0.1-0.2		50	0	2	18	10	0.1	2.2				
0.2-0.3		43	0	0	13	13	0.2	2.9				テフ
0.3-0.4		69	0	1	8	16	0.3	1.7		1.495-1.501		
0.4-0.5		58	0	1	17	19	0	2.3			AT+K-Tz混在	(四)日
0.5-0.6	崖錐堆積物	16	0	0	3	6	0	1.2			(一部K-Ah含む)	K-Ah
0.6-0.7		32	0	0	1.5	5.5	0	1.2		1.496-1.501 (1.511含む)		
0.7-0.8		6	0	1	0.3	0.8	0	0				AT:Z.
0.8-0.9		1.8	0	0.1	0.4	0.3	0	0				K-Tz:
0.9-1.0		3	0	0.2	0.2	0.5	0	0		1.496-1.500 (1.510含む)		
		Bw: バブルウォー	ールタイプ		Opx:斜方輝石	GHo:緑色普通角	問石 Cum:カミ	ングトン閃石				

Pm:パミスタイプ 0:低発泡タイプ ラの年代 田・新井, 2011) 1:7.3千年前 1.8万~3万年前 :9.5万年前

⑦高位段丘亚面 段丘面調査結果

斑紋の

コントラスト

明 瞭

きわめて明瞭

トラ斑記載









近接写真(ⅢB1g)

28高位段丘亚面 段丘面調査結果



調査位置図





近接写真(ⅢB2g)

近接写真(ⅡB3g)

②高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



③高位段丘Ⅳ面 段丘面調査結果



0:低発泡タイプ

調査位置図



=+++시 코드 디	火山カラスの	D形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/30)	00粒子)	β石英	#==== ~~	ルルボニュの兄长女	斤率 テフラ名
試料番号	Bw	Pm	0	Орх	GHo	Cum	(/3000粒子)	行記如初	火山カラスの屈折率	テノフ名
0.0-0.1	240	0	16	13	66	0	3			
0.1-0.2	362	0	6	15	73	2	5		1.496-1.500	
0.2-0.3	292	0	7	20	47	1	5			
0.3-0.4	269	0	8	4	39	1	4			AT+K-Tz混在
0.4-0.5	271	0	4	16	76	3	5			
0.5-0.6	243	0	7	16	90	1	8			
0.6-0.7	60	0	2	10	44	0	7		1.496-1.501	
0.7-0.8	9	0	0	1	28	1	10			
0.8-0.9	5	1	0	0.6	13	0	9			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.6	0	13			K-Tz
1.0-1.1	0.4	0	0	0	0.8	0	9			
1.1-1.2	0	0	0	0	1	0	4			
1.2-1.3	0	0	0	0	0.6	0	6			
1.3-1.4	2	0	0	0	0	0	4			
1.4-1.5	0	0	0	0	0.7	0.3	5			
15-16	1	0	0	0	0.4	0.4	4			

③高位段丘亚面 段丘面調査結果





遠景写真



試料写真 深度0.0~0.3m



試料写真 深度0.3~0.6m

1-2 3, 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 the state of the second

試料写真 深度0.6~0.8m

火山灰分机	斤結果
-------	-----

計約 来口	火山ガラスの	O形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/30	00粒子)	β石英	山山ガニュの民任変	テフラ名
武科俄方	Bw	Pm	0	Орх	GH₀	Cum	(/3000粒子)	火山カラスの屈折率	テノフ名
0.0-0.1	155	0	2	11	54	0	11		
0.1-0.2	182	0	0	10	67	0	6		
0.2-0.3	310	0	2	3	37	0	5	1.497-1.500	AT
0.3-0.4	52	0	0	12	34	0	7		
0.4-0.5	30	0	0	2	11	0	11		
0.5-0.6	35	0	0	3	16	0	7		K–Tz
0.6-0.7	9	0	0	1	2	0	1		
0.7-0.8	3	0	0	2	2	0	0.5		

調査地点 EL 89.0m

深度0.0~0.2m	砂質シルト(暗褐色土壌), 灰黄褐色(10YR 4/2)
深度0.2~0.4m	砂混じりシルト(明褐色土壌), 明褐色(7.5YR 5/6)
深度0.4~0.8m	砂混じり粘土(赤褐色土壌), 赤褐色(5YR 4/8), 石英粒子を含む

Bw: バブルウォールタイプ Pm:パミスタイプ 0:低発泡タイプ

Opx:斜方輝石 GHo:緑色普通角閃石 Cum:カミングトン閃石

1km

③高位段丘亚面 段丘面調査結果



火山灰分析結果

- 국 지 포 묘	火山ガラスの	O形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/300	00粒子)	β石英	小山ボラスの同任変	テフラ名
武科留方	Bw	Pm	0	Орх	GH₀	Cum	(/3000粒子)	く いっつんの 屈折率	ノノフ石
0.0-0.1	111	0	0	27	38	0	0		AT
0.1-0.2	142	0	0	22	53	0	0	1.497-1.501(27/30),1.510-1.513(3/30)	K−Ah混在
0.2-0.3	68	0	0	9	22	0	0		
0.3-0.4	29	0	0	1	16	0	0		
0.4-0.5	9	0	0	4	9	0	2		K-Tz
0.5-0.6	10	0	0	67	0	0	0.1		
0.6-0.7	1	0	0	0.4	1.2	0	0.3		
0.7-0.8	1	0	0	5	1	0	0.1		
0.8-0.9	0.4	0	0	0.7	0.3	0	0		



遠景写真



試料写真 深度0.0~0.3m



試料写真 深度0.3~0.6m

23456789301 5 6 7题8 9 10 3 5 6 Я

試料写真 深度0.6~0.9m

調査地点 EL 82.	0m
深度0.0~0.2m	砂質シルト(暗褐色土壌), にぶい黄褐色(10YR 5/3)
深度0.2~0.4m	礫混じり砂質シルト(明褐色土壌),明褐色(7.5YR 5/8),
	安山岩のくさり礫(径2~5mm)含む
深度0.4~0.6m	礫混じり砂質シルト(赤褐色土壌),明褐色(7.5YR 5/8),
	安山岩のくさり礫(径2~5mm)含む
深度0.6~0.9m	礫混じり砂質シルト(赤褐色土壌),褐色(7.5YR4/4),礫
	の含有率は少ない
	2 2-1-38

Bw: バフルウォールタイフ Pm:パミスタイプ 0:低発泡タイプ

Opx:斜方輝石 GHo:緑色晋通角閃石 Cum:カミングトン閃石
③高位段丘亚面 段丘面調査結果





遠景写真



試料写真 深度0.0~0.3m



試料写真 深度0.3~0.6m



試料写真 深度0.6~0.9m

火山灰分析結界	₽
---------	---

- * 제 쇼 ㅁ	火山ガラスの	D形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/300	00粒子)	β石英	ルルギニスの母だ変	-7-8
武科留方	Bw	Pm	0	Орх	GH₀	Cum	(/3000粒子)	火田ガラスの屈折率	テノフ石
0.0-0.1	173	0	0	8	32	0	3.5		
0.1-0.2	278	0	0	11	25	0	4.5		
0.2-0.3	368	0	0	5	24	0	5	1.497-1.500(30/32),1.508-1.514(2/32)	
0.3-0.4	214	0	0	4	23	0	5		AT
0.4-0.5	292	0	0	0.5	24	0	7.5		K−Ah混在
0.5-0.6	330	0	0	0.5	31	0	7.5		
0.6-0.7	30	0	0	3	13	0	4.5		
0.7-0.8	11	0	0	0	2	0	6		
0.8-0.9	33	0	0	1	5	0	5		
	- *-*								

調査地点 EL 99.0m

深度0.0~0.2m 砂質シルト(暗褐色土壌), 灰黄褐色(10YR 4/2)
 深度0.2~0.7m 砂混じりシルト(明褐色土壌), 明褐色(7.5YR 5/6)
 深度0.7~0.9m シルト質粘土(赤褐色土壌), 赤褐色(5YR 4/8), 不明瞭 なトラ斑あり。

Bw: バブルウォールタイプ Pm: パミスタイプ O: 低発泡タイプ Opx:斜方輝石 GHo:緑色普通角閃石 Cum:カミングトン閃石

③中位段丘 I 面 段丘面調査結果





コア写真





遠景写真

③中位段丘 I 面 段丘面調査結果

分析項目

火山灰分析

0.91-1.03m

K-Ta (1.27-1.36m)







コア写真





遠景写真



段丘面分布図

1km



	深				土壤	罾位	土性			腐植	硬曲	乾	層界	石					分析結果
	度 (m)	E.	fi d		名称	厚さ (cm)	あるいは 地質名	土 色	土壤構造	合量	密度	湿	の性状	砄	Đ	£	紋	観察記事	火山灰分析
(EL 27.2m) –	0.0	00 • 01 • 02 •	SL	1	A	30	砂質シルト	黑褐(10YR 3/2)	羽亚角塊状	含	密	乾	平坦			なし	L.		1
		03 • 04 • 05 • 06 • 07 • 08 •	SL		B1	60	砂質シルト	掲(7.5YR 4/6)	弱重角塊状	なし	密	半湿	不明			なし	Ĺ.		AT7 (2.4-0.5m)
	1.0	09 10 11 12 13																わずかにキュータンが見られる。	
		14 · 15 · 17 · 14 ·	L		B2	150	シルト	赤褐(5YR 4/6)	中塊状	なし	密	半提	不明			なし	L		
	2.0	20 e 21 e 22 e 23 e																	K-T2(2.0-2.1m)
	3.0	24 25 27 27 28	L		В3	70	シルト	掲(7.5YR 4/6)	中塊状	なし	密	半復	不明	安山岩		なし	L	希に安山岩の亜角種(3~7cm)を含む。 種のリム部には風化皮膜?(幅4mm程度) が確認できる。	
		20 21 32 33 34	G		с	40	a	明褐(7.5YR 5/8)	不明	なし	ф	半擾		安山岩				課は基質支持で、新鮮な安山岩の亜円礫(径1~6 (m, 最大径15m)からなる。基質はシルトで、土 壊化し明陽色を呈す。	
	4.0																		
		-																	

火山灰分析結果



유치조묘	火山ガラスの) 形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物の含有	量(/3000粒子)	β石英	At 93 At Am	ルルポニュの同た東	= 7 = 8
訊科留亏	Bw	Pm	0	Орх	GHo	(/3000粒子)	计中自口 网络书约	火山カラへの屈折率	テノフ名
A00	602	0	0	127	28	0.4			
A01	533	0	0	62	40	0.2			
A02	460	0	0	72	35	0.5			
A03	463	0	0	57	83	1.1			
A04	789	0	0	33	43	0.7		1.4940-1.4966(3/30), 1.4973-1.5003(27/30)	AT
A05	351	0	0	32	25	0.8			
A06	211	0	0	34	30	1			
A07	156	0	0	39	35	0.5			
A08	50	0	0	32	32	2			
A09	8	0	0	10	47	1.7			
A10	3	0	0	11	17	1.7			
A11	4	0	0	5	9	1			
A12	1	0	0	2	8	1.4			
A13	0	0	0	0	2	2.7			
A14	0.5	0	0	6	2	2.1			
A15	0	0	0	3	0.5	2.8			
A16	0	0	0	0	0.1	2.5			
A17	0	0	0	1	1	2.3			
A18	0.3	0	0	1	10	3.4			
A19	0	0	0	0	0	3			
A20	0	0	0	0	1	4.2			K-Tz
A21	0.2	0	0	2	1	1.9			
A22	0.3	0	0	1	0	0.9			
A23	0	0	0	1	0	0.6			
A24	0	0	0	0.5	0.5	0.3			
A25	0.3	0	0	2	0.5	0.1			
A26	0	0	0	0	0	0.1			
A27	0.1	0	0	0.2	0.2	0.2			
A28	0	0	0	0.5	0.2	0.4			
A29	0	0	0	0.7	0.2	0			
A30	0	0	0	14	3	0.3			
A31	0.3	0	0	85	0	0			
A32	15	0	0	107	6	0.9		1.4969-1.5003	
A33	14	0	0	68	5	0.2		1.4949, 1.4974-1.5001(29/30)	
A34	4	0	0	108	0	0.1			
	Bw: バブルウォー	ールタイプ		Opx:斜方輝石 G	iHo:緑色普通角閃	石			
	Pm:パミスタイプ	1							
	0:低発泡タイプ								

テフラの年代 (町田・新井, 2011)



第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-43 再掲



Į,					
	A.M-	酸性シュウ酸塩	ジチオナイト	遊離西	後化鉄
計制来早	主妖	可溶鉄	可溶鉄	結晶化指数	活性度
四十十世方	Fet	Feo	Fed	(Fed-Feo)	Ean /Ead
	g/kg*	g/kg*	g/kg*	/Fet	Fe0/Fed
A0212-F18	66.2	2.4	49.7	0.71	0.05

テフラの年代 (町田・新井, 2011) K-Tz:9.5万年前



③P位段丘 I 面 段丘面調査結果



【火山灰分析結果,主成分分析結果(火山灰確認用ボーリング)】



【火山灰分析結果(敷地北方ピット)】



地点:SH2



地点:SH④



火山灰分析結果(敷地北方ピット)



角閃石の屈折率(n2)

1,680

1,690



CountEl Bt

β石英 火山ガラスの屈折率(nd) 備考 00827 1.670 1 500 1 510 Aso-4 Ho含む Aso-4 Ho含む Aso-4 Ho含む

8石英



16



β石英中の火山ガラスの主成分分析結果

Æ

.....

←N



【火山灰分析結果】

35mtr(^	1)																				
타 찌 포 ㅁ	ニコニタ	メ 形	く山: 彡態)	ガラ 別言	ラス	の量			ļ	重鍧 (/	広牧 30	勿 <i>0</i>)00	D含	清子	ī量)		β	石	英	-	備去
武叶田方	7774	() 1	/30 º 20	0 0 30	粒子	-) 50		0 5	рх 10 1	5	1	GI s 1	lo ∘₁	5	Cum	(/:	1	2 3	Ш- з	£) ₄	C, BM
35m tr(1)-01																					
35m tr(1)-02						Т										Г			\square		
35m tr(1)-03						Τ	Г														
35m tr(1)-04							Γ														
35m tr(1)-05							5									Г					
35m tr(1)-06							Г									Γ					
35m tr(1)-07							Г	Γ								Г					
35m tr(1)-08							Γ														
35m tr(1)-09							Γ									Γ					
35m tr(1)-10						Τ	Г	Γ								Г					
35m tr(1)-11							Γ									Г					
35m tr(1)-12							Γ									Γ					
35m tr(1)-13						Τ	Г	Γ								Г			\square		
35m tr(1)-14																					
35m tr(1)-15																					
35m tr(1)-16							Γ														

試料は5cm間隔

35mtr(3)

= 수 사실 고프, 디		火L 形態	山ガ 態別	ラ合	ス0 有量			重 ()	鉱។ /30	勿 <i>0</i>)00	D含))粒	有子	「量)	ļ	3 7	词	ŧ	/# #
試料番亏	テフフ名	(/3	20 3		(子) 。 so	5	Op 10)X		Gl s	Ho □ 1	5	Cum	(/3	2 00	D粒 3	子) 4	加考
35m tr(3)-01																		
35m tr(3)-02																		
35m tr(3)-03																		
35m tr(3)-04																		
35m tr(3)-05																		
35m tr(3)-06	K-Tz																	
35m tr(3)-07																		
35m tr(3)-08																		
35m tr(3)-09																		
35m tr(3)-10																		
35m tr(3)-11																		
35m tr(3)-12																		
35m tr(3)-13																		
35m tr(3)-14														\square				
35m tr(3)-15														\square				
35m tr(3)-16																		
35m tr(3)-17																		
35m tr(3)-18																		
35m tr(3)-19																		
35m tr(3)-20																		
35m tr(3)-21																		
35m tr(3)-22																Τ		
35m tr(3)-23																		
35m tr(3)-24																Ι		
35m tr(3)-25																		

試料は5cm間隔

Opx:斜方輝石 GHo:緑色普通角閃石 Cum:カミングトン閃石

・β石英中のガラス包有物の主成分分析結果については、次頁を参照

35mtr(2)

计空间		火山 形態	iガラ 別含	ス(有)	の 量			1	重釦 (/:	太牧 30]の 00	含粒	有子	「 量)		B 7	石	英		供来
	テノフ名	(/30	000粒 ³⁰³⁰	1子 ∞)	5	Op 10)X	5	5	GH	lo 1	5	Cum	(/3000粒子) 1 2 3 4				₹) י	順の
35m tr(2)-01																				
35m tr(2)-02																				
35m tr(2)-03	K-Tz																			
35m tr(2)-04																				
35m tr(2)-05																				
35m tr(2)-06									Τ											
35m tr(2)-07							Τ		Т											
35m tr(2)-08																				
35m tr(2)-09																				
35m tr(2)-10									Τ											
35m tr(2)-11							Τ		Т											
35m tr(2)-12									Т											
35m tr(2)-13									Т											
35m tr(2)-14									T											
35m tr(2)-15																				
35m tr(2)-16																				
35m tr(2)-17									┓											
35m tr(2)-18																				

試料は5cm間隔

【主成分分析結果】



試料番号35mtr(2)-3



試料番号35mtr(3)-6

◆ 35m盤トレンチにおけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

× 古澤・中村(2009)におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分



【火山灰分析結果】

火山灰分析結果







Cum:カミングトン閃石

・β石英中のガラス包有物の主成分分析結果については、次頁を参照



















78.00

80.00

⁻iO₂(wt.%)

82.00

2.80

76.00



















 ・ 駐車場南東方トレンチにおけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

 古澤・中村(2009)におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

β石英中のガラス包有物の主成分分析結果

[段丘面]



【火山灰分析結果】



■ パブルウォール(be) タイプ Opx 能力算石 CPIな 給色書通典問石 Cun:カロングトン問石

CountILIR 20

試料は5cm間隔















コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)



ピット写真





段丘面分布図



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-61 再掲



0.5

0.2

0.1

7.2

11.1

4.5

3.6

0.8

1.2

0.6

0.5

0.5

0.1

0.5

0.1

0.2

K–Tz

0.2

コア写真(0.0~1.96m, 掘進傾斜鉛直)



Bw: バブルウォールタイプ、Pm: パミスタイプ、O: 低発泡タイプ





段丘面分布図



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)







コア写真(0.0~3.9m, 掘進傾斜鉛直)



FD-5孔コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜45°)



テフラの年代 (町田・新井, 2011)

K-Ah:7.3千年前 AT:2.8万~3万年前

0:低発泡タイプ

火山灰分析結果

	火山ガラスの)形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物G	の含有量(/30	00粒子)	β石英	⋫╪╤┐⋩⋵⋼⋈	ルルギニュの兄に変	
<u> 訊</u> 科	Bw	Pm	0	Орх	GHo	Cum	(/3000粒子)	符記動物	火山カラスの屈折率	テノフ名
0.0-0.1	74	0	0	36	5	0	0			
0.1-0.2	81	0	0	9	3	0	0.2			
0.2-0.3	102	0	0	7	8	0.1	0.3			
0.3-0.4	211	1	4	3	5	0.1	0.2		1.497-1.502(27/30),1.510-1.514(3/30)	
0.4-0.5	196	3	3	2	13	0.1	0.1			AT+K-Ah
0.5-0.6	287	3	6	4	11	0.5	0.5		1.494-1.501(28/30),1.511-1.514(2/30)	混在
0.6-0.7	220	0	3	4	12	0.1	0.2			
0.7-0.8	143	0	5	1	10	0	0.2			
0.8-0.9	70	0	3	3	6	0.1	0.6			
0.9-1.0	9	0	0	3	9	0.1	0.4			
1.0-1.1	8	0	1	1	8	0	0.2			
1.1-1.2	2	0	0	0.1	10	0	0.5			
1.2-1.3	0.1	0	0	0	6	0	1.2			
1.3-1.4	0	0	0	0.1	2	0	1.1			
1.4-1.5	0	0	0.1	0.1	2	0	1.3			
	Bw: バブルウォー Pm: パミスタイブ	ールタイプ		Opx:斜方輝石	GHo:緑色普	通角閃石 Cu	m:カミングトン閃そ	5		



FD-4孔コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜45°)



2.2-1-67

FD-7孔コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜45°)



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-69 再掲



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

e高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



①高位段丘 I b面 段丘面調査結果



ピット写真

4

⑧高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



ピット写真

的高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



①高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



古期扇状地面 沖積段丘面 [リニアメント・変動地形] LB (変動地形である可能性がある) Lc (変動地形である可能性が低い) LD (変動地形である可能性は非常に低い) ケバは低下側を示す。 ↓は地形面の傾斜の向きを示す。

高位段丘Ⅱ面



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)
①高位段丘 I b面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-75 再掲



N-1

3.00-

コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

ⓒ高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



露頭写真



試料番号	火山ガラスの形態別含有量(/3000粒子)			重鉱物の含有量(/3000粒子)			β石英	#≠ =⊐ &÷ #/m	ルルギニュの日长変	
	Bw	Pm	0	Орх	GHo	Cum	(/3000粒子)	1국 담근 회사 19기	父田ガラスの屈折率	テノノ石
0.1-0.2	166	0.1	0.1	4	28	0.3	3.1		1.494-1.501	АТ
0.2-0.3	157	0	0	2	28	0	5.2		1.496-1.500	AI
0.3-0.4	57	0	0	0	9	0	3.2			
0.4-0.5	20	0	0	0.1	3	0	1.9			
0.5-0.6	3	0	0	0	0.6	0	3.6			
0.6-0.7	1.4	0	0	0	0.2	0	2.2			
0.7-0.8	0.3	0	0	0	0.2	0	1.5			
0.8-0.9	0.4	0	0	0.1	1	0.1	3.6			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.2	0.1	2.2			K-Tz
1.0-1.1	0	0	0	0	0.2	0	0.7			
1.1-1.2	0.1	0	0	0.1	0	0	0.3			
1.2-1.3	0	0	0	0	0	0	0.3			
1.3-1.4	0	0	0	0	0	0	0.2			
1.4-1.5	0.1	0	0	0.3	0	0	0.2			
	Bw: バブルウォ	ールタイプ		Opx:斜方輝石	GHo:緑色普通角	問石 Cum:カミ	ングトン閃石			

BW:ハンル・フォールタイ Pm:パミスタイプ O:低発泡タイプ

①高位段丘 I b面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-77 再掲









コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜鉛直)

⑩高位段丘 I b面 段丘面調査結果



コア写真(0.0~4.15m, 掘進傾斜鉛直)

向高位段丘 I b面 段丘面調査結果



OS-2孔コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜45°)

③高位段丘 I b面 段丘面調査結果



⑦高位段丘 Ib面 段丘面調査結果





火山灰分析結果

試料番号	火山ガラスの)形態別含有量	(/3000粒子)	重鉱物	の含有量(/300	00粒子)	β石英	特記鉱物	火山ガラスの屈折率	テフラ名
	Bw	Pm	0	Орх	GH₀	Cum	(/3000粒子)			
0.0-0.1	10	0	1	0	1	0	0.3			
0.1-0.2	1	0	0	0.1	0.3	0	0.2			
0.2-0.3	0.2	0	0	0	0.1	0	0			
0.3-0.4	0	0	0	0	1	0	0.3			
0.4-0.5	0	0	0	0	0	0	0.1			
0.5-0.6	0	0	0	0.1	0	0	0			
0.6-0.7	0.1	0	0	0	0	0	0			
0.7-0.8	0	0	0	0	0	0	0			
0.8-0.9	0.1	0	0	0	0	0	0			
0.9-1.0	0	0	0	0	0.1	0	0			
1.0-1.1	0	0	0	0	0	0	0			
1.1-1.2	0	0	0	0	0	0	0			
1.2-1.3	0	0	0	0	0	0	0			
1.3-1.4	0	0	0	0.1	0	0	0			
Bw: バブルウォールタイプ Opx:斜方輝石 GHo:緑色普通角閃石 Cum:カミングトン閃石										

Bw: バフルウォールタ・ Pm: パミスタイプ O: 低発泡タイプ

, Ol



3. Om-

柱状図

FD-8孔コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜45°)

 ··· 砂混じり

。[。] 礫混じり

」「 砂質

表土

被覆層

海成堆積物

④高位段丘 Ib面 段丘面調査結果

第1168回審查会合 机上配布資料1 P.2.2-1-82 再掲



Pm:パミスタイプ

0:低発泡タイプ

-1. Om —

柱状図

2.2-1-82

⑦高位段丘 Ib面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-83 再掲



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

⑤高位段丘 Ib面 段丘面調査結果

沖積段丘面

[リニアメント・変動地形]

ケバは低下側を示す。 ↓は地形面の傾斜の向きを示す。

Ls (変動地形である可能性がある)
 Lc (変動地形である可能性が低い)
 Lc (変動地形である可能性が低い)
 Lo (変動地形である可能性は非常に低い)





コア写真(0.0~4.0m, 掘進傾斜鉛直)

①高位段丘 I b面 段丘面調査結果



露頭写真

山高位段丘 Ib面 段丘面調査結果





段丘面分布図



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

☑高位段丘Ⅰb面 段丘面調査結果





コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜鉛直)

段丘面分布図





コア写真(0.0~3.0m, 掘進傾斜鉛直)

⑧高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果





段丘面分布図



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

⑨高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果





②高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果









柱状図

0:低発泡タイプ

▲高位段丘Ⅱ面 段丘面調査結果



コア写真(0.0~5.0m, 掘進傾斜鉛直)

⑧高位段丘亚面 段丘面調査結果



2.2-1-93

⑦高位段丘亚面 段丘面調査結果

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-94 再掲



·具 涂度0.6~0.85m

テフラの年代 (町田・新井, 2011)

AT:2.8万~3万年前



①高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



⑥高位段丘 Ib面 段丘面調査結果



Lo(変動地形である可能性は非常に低い)

ケバは低下側を示す。 ↓は地形面の傾斜の向きを示す。

深度0.00~0.70m(EL41.02~40.32m) 表土

深度2.40~5.00m(EL38.62~36.02m) 安山岩(角礫質)

深度0.70~2.40m(EL40.32~38.62m) シルト(1.30-2.40m区間は赤色部と淡色部からなる斑紋状の 組織が認められ、トラ斑を伴う赤色土壌と考えられる)



コア写真(C-13孔 0.0~5.0m 掘進傾斜鉛直)

(2)大坪川ダム右岸周辺調査

大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真位置図

〇大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ調査の結果,福浦断層に対応する断層を確認した。 〇全線の写真を次頁以降に示す。



大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真①~②

W→



写真①





写真③



大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真⑤~⑦

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-101 再掲

FE W→



写真⑥



大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真⑧~⑪

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-102 再掲



写真⑧



写真⑨





1m

W→

大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真⑪~⑫

←Е



写真①



大坪川ダム右岸北道路法面表土はぎ 写真(3~(4)

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-105 再掲

W→

←E



写真13



大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ 写真位置図

○大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ調査の結果,福浦断層に対応する断層を確認した。 ○全線の写真を次頁以降に示す。



表土はぎ調査結果(ルートマップ) 写真位置図

W→

大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ 写真①~③

←Е

写真① 断層 写真②



њЕ



写真④



写真⑤



大坪川ダム右岸南道路底盤表土はぎ 写真⑦~⑧

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-109 再掲



写真⑦



写真⑧

下写真範囲



写真⑧ 中央部拡大 基質と色調が異なる礫を赤矢印で示す。

大坪川ダム右岸トレンチ西側・東側トレンチ底盤 写真, スケッチ

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-110 再掲


【大坪川ダム右岸トレンチ】

		よこ置き(ab面)						たて置き(ac面)					
試料 No.	礫種	長径(a) (cm)	中間径 (b) (cm)	面積 (cm²)	周囲長 (cm)	真円度 (Circularity)	中間径長径 比(b/a)	長径(a) (cm)	短径(c) (cm)	面積 (cm²)	周囲長 (cm)	真円度 (Circularity)	短径長径比 (c/a)
1	安山岩	20.743	20.086	327.236	70.599	0.825	0.968	21.334	13.784	230.961	60.329	0.797	0.646
2	安山岩	10.517	8.380	69.214	32.517	0.823	0.797	11.465	7.000	63.038	31.876	0.780	0.611
3	安山岩	13.284	9.970	104.016	40.143	0.811	0.750	13.526	5.020	53.331	34.580	0.560	0.371
4	安山岩	16.522	9.765	126.711	46.082	0.750	0.591	16.683	7.318	95.888	43.051	0.650	0.439
5	安山岩	18.911	15.868	235.681	61.195	0.791	0.839	18.452	11.661	168.986	54.925	0.704	0.632
6	安山岩	7.394	4.801	27.878	21.514	0.757	0.649	7.579	3.734	22.229	19.739	0.717	0.493
7	安山岩	8.561	4.644	31.227	23.266	0.725	0.542	8.851	3.960	27.526	22.600	0.677	0.447
8	安山岩	14.557	7.644	87.401	39.676	0.698	0.525	15.847	4.205	52.333	37.270	0.473	0.265
9	安山岩	11.094	7.844	68.341	33.310	0.774	0.707	11.314	5.344	47.485	29.533	0.684	0.472
10	安山岩	7.368	4.777	27.643	21.178	0.775	0.648	7.000	4.831	26.562	62.998	0.846	0.690
11	安山岩	20.312	16.755	267.287	62.998	0.846	0.825	21.652	9.269	157.614	56.619	0.618	0.428
12	安山岩	6.700	4.620	24.309	19.493	0.804	0.690	6.817	3.741	20.032	18.356	0.747	0.549

データ数	平均真円度(ab面)	平均中間径長径比	平均短径長径比
12	0.782	0.711	0.504



(3) 福浦断層 薄片観察

(3)-1 FK-1孔

FK-1孔 一薄片作成箇所一









🗖 破砕部

・BHTVでN4°W/69°SW(走向は真北基準)
・見かけの傾斜角20~25 [°] の厚さ6.5cmの破砕部。
厚さ1.0cmのにぶい褐色, にぶい赤褐色を呈する未固結な粘土を挟在する。
下部は一部固結している。

コア写真(FK-1孔)



FK-1孔から採取したブロックの主せん
断面において,71°R(下盤側換算)の
条線方向で薄片を作成した。



条線観察結果

・FK-1孔の深度52.5m付近で認められる福浦断層の主せん断面において,71°R(下盤側換算)の条線方向で薄片を作成した。

ブロック写真

FK-1孔 一薄片観察結果-

【薄片観察(解釈線なし)】



福浦断層_FK−1孔

【薄片観察(解釈線あり)】



・なお、複数認められるY面の一部には、変質の影響で不連続になる箇所も認められる。

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-118 再掲



・断層ガウジ中に明瞭な複合面構造が認められ、複数認められるY面は直線性・連続性がよく明瞭である。 ・複合面構造から逆断層センスを推定した。

福浦断層_FK-1孔

【層状構造】



・断層ガウジ中に粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され、繰り返し活動した構造が認められる。



・FK-1孔の断層位置でXRD分析を実施した結果,主な粘土鉱物としてスメクタイトが認められる。

(3)-2 大坪川ダム右岸トレンチ

大坪川ダム右岸トレンチ 一薄片作成箇所一



・大坪川ダム右岸トレンチで認められる福浦断層の主せん断面において、100°Rの条線方向及びその直交方向の10°Rで薄片を作成した。

【薄片観察_100R(解釈線なし)】



【薄片観察_100R(解釈線あり)】



・大坪川ダム右岸トレンチ(100R)の薄片観察の結果,不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。
・なお,複数認められるY面の一部には,風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。

第1168回審査会合 机上配布資料1 P.2.2-1-125 再掲



・断層ガウジ中に明瞭な複合面構造が認められ、複数認められるY面は直線性・連続性がよく明瞭である。
・複合面構造から逆断層センスを推定した。
・断層ガウジ中では、粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され、繰り返し活動した構造が認められる。

【薄片観察_10R(解釈線なし)】



【薄片観察_10R(解釈線あり)】



・大坪川ダム右岸トレンチ(10R)の薄片観察の結果,不連続箇所が認められない連続的なY面が観察される。 ・なお、複数認められるY面の一部には、風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。

【複合面構造, 層状構造(10R)】



・断層ガウジ中では、粘土鉱物が層状に分布する層状構造が観察され、繰り返し活動した構造が認められる。



・大坪川ダム右岸トレンチの断層位置でXRD分析を実施した結果、主な粘土鉱物として風化変質鉱物と考えられるハロイサイトが認められる。

(3)-3 大坪川ダム右岸北道路



・大坪川ダム右岸北道路で認められる福浦断層の主せん断面において、120°Rの条線方向で薄片を作成した。

【薄片観察(解釈線なし)】



福浦断層_大坪川ダム右岸北道路

【薄片観察(解釈線あり)】



・なお,複数認められるY面の一部には,風化変質等の影響で不連続になる箇所も認められる。